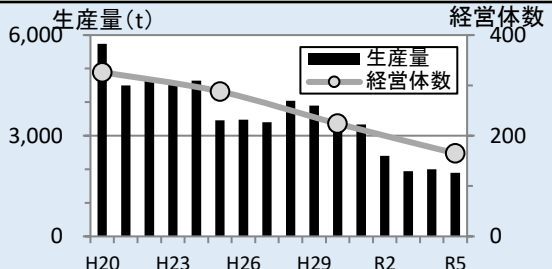


目的	令和元年以降継続するマガキ大量へい死により、廃業が続くマガキ産地は危機的な状況となっている。また、不漁が続く伊勢湾では、獲る漁業のみでは漁家経営が厳しい状況となっている。既存のマガキ産地や不漁が続く伊勢湾において、新たなマガキ養殖の展開によって活気ある浜の再生を実現します。		生産量(t) 経営体数 <table><caption>県内の養殖カキ生産量と経営体数</caption><thead><tr><th>年度</th><th>生産量 (t)</th><th>経営体数 (体数)</th></tr></thead><tbody><tr><td>H20</td><td>5,500</td><td>350</td></tr><tr><td>H21</td><td>5,000</td><td>330</td></tr><tr><td>H22</td><td>4,800</td><td>310</td></tr><tr><td>H23</td><td>4,500</td><td>290</td></tr><tr><td>H24</td><td>4,200</td><td>270</td></tr><tr><td>H25</td><td>4,000</td><td>250</td></tr><tr><td>H26</td><td>3,800</td><td>230</td></tr><tr><td>H27</td><td>3,500</td><td>210</td></tr><tr><td>H28</td><td>3,200</td><td>190</td></tr><tr><td>H29</td><td>3,000</td><td>170</td></tr><tr><td>R1</td><td>2,800</td><td>150</td></tr><tr><td>R2</td><td>2,500</td><td>130</td></tr><tr><td>R3</td><td>2,200</td><td>110</td></tr><tr><td>R4</td><td>2,000</td><td>90</td></tr><tr><td>R5</td><td>1,800</td><td>70</td></tr></tbody></table>	年度	生産量 (t)	経営体数 (体数)	H20	5,500	350	H21	5,000	330	H22	4,800	310	H23	4,500	290	H24	4,200	270	H25	4,000	250	H26	3,800	230	H27	3,500	210	H28	3,200	190	H29	3,000	170	R1	2,800	150	R2	2,500	130	R3	2,200	110	R4	2,000	90	R5	1,800	70
年度	生産量 (t)	経営体数 (体数)																																																	
H20	5,500	350																																																	
H21	5,000	330																																																	
H22	4,800	310																																																	
H23	4,500	290																																																	
H24	4,200	270																																																	
H25	4,000	250																																																	
H26	3,800	230																																																	
H27	3,500	210																																																	
H28	3,200	190																																																	
H29	3,000	170																																																	
R1	2,800	150																																																	
R2	2,500	130																																																	
R3	2,200	110																																																	
R4	2,000	90																																																	
R5	1,800	70																																																	
必要性	既存のマガキ産地 廃業を食い止めるには、即効性のある新たなへい死対策を即座に普及する必要がある。	不漁が続く伊勢湾 水深の浅い伊勢湾での効率が良い養殖技術は確立されていない。																																																	
取組	▶大量へい死への有効策を明らかにする。 対策試験 1 三倍体種苗の導入試験 対策試験 2 伊勢湾での中間育成試験 (伊勢湾での養殖方法確立) ▶本県に適した安価な種苗の大量生産を目指す。 対策の実行 本県に適した三倍体種苗生産技術の実証 ・三倍体種苗は、生殖にエネルギーを使わないため、 ・伊勢湾は、エサが多いため、 へい死率が低い、身入りが良い。 																																																		
効果	既存のマガキ産地 有効なへい死対策の普及により、経営状況が改善し、危機的な状況を打開！	不漁が続く伊勢湾 獲る漁業に加えて、計画的に収入が見込めるマガキ養殖の開始により、持続可能な漁業経営を確立！																																																	